

コエゾゼミ

バスを西岡 4 条 14 丁目の終点で降りて澄川森林へ歩く道すがら、のべつゼミの音が絶えないのです。2013 年 7 月 30 日澄川での炭焼きの日でした。森では基地まわりの樹木の幹に抜け殻が沢山。壊れた耳の耳鳴りのようにゼミの音が絶え間なく降ってきます。チェーンソーの手入れやガス入れをする作業台のすぐ下の地面には、終齢幼虫が抜け出した穴が 50cm×50cm の中に 9 個も数えられます。ゼミが大発生したようです。



エゾゼミだろと思っていたのですが、帰宅してから上の映像を図鑑としっかり見比べてみると、明らかにコエゾゼミの特徴と一致しました。コエゾゼミはエゾゼミより少し小ぶりです。コエゾは鼻先から羽の先端までが 47~53mm に対してエゾは 48~60mm と図鑑「札幌の昆虫」に記載されています。もう一種アカエゾゼミというのがあるようですが、さらに大きく 58~65mm、これら 3 種類が北海道に棲むエゾゼミ属とされていますので、澄川のゼミを注意して見守りたいと思います。一番早く出てくるエゾハルゼミは紹介済みですが、内地でなじんでいたヒグラシ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、さらにエゾチッチゼミも図鑑に載っています。これらは札幌あたりでは希少種だと思います。全部で 10 種類になります。

コエゾは鳴き方はエゾゼミに似ていて区別しにくいのですが、装いにしても模様のパターンがよく似ていて近縁と思わせるのですが、エゾとコエゾとは日本に到るルートが違ってエゾは南方経由、コエゾは北方サハリン経由とされています。経路はちがっていても鳴き声や模様のパターンが似ているので原産地は同じかもしれません。ちなみにエゾチッチと 2 種類のみが北経路でその他の全部は南経路だそうです。

Wikipedia によりますと分布は南千島、カラフト、本州では南限が広島県までで標高 1000 mあたりと涼しいところが好みようです。四国、佐渡島にもいるようです。

